

DATA

# Panasonic Homes

パナソニック ホームズ グループ  
環境パフォーマンスデータ 2018

# 地球温暖化防止に関する環境パフォーマンス

## 自己評価基準



2017年度目標を達成しました。



2017年度目標は達成できませんでしたが、前年度より改善しました



前年度から改善されませんでした。

目的

部門

INPUT  
合計 785,326 GJ

総発熱量 182,051 GJ

### エネルギー

電力	14,553.613 kWh
A重油	187,920 L
LPG	12,373 kg
LNG	428,840 kg
灯油	5,938 L
軽油	141,629 L
バイオ軽油	1,992 L
揮発油(ガソリン)	102 L

総発熱量 137,512 GJ

### エネルギー

軽油	2,947,853 L
重油(内航)	148,147 L
軽油(廃棄物物流)	546,039 L

総発熱量 324,478 GJ

### エネルギー

電力	13,975.089 kWh
LPG	7,386 m³
灯油	9,440 L
都市ガス	17,960 m³
温水・冷水	8,029,090 MJ
ガソリン	4,947,304 L
軽油	30,706 L

総発熱量 141,284 GJ

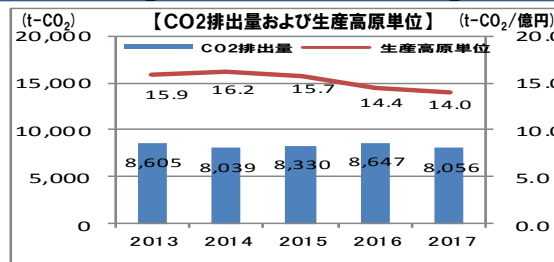
### エネルギー

電力	1,002,229 kWh
ガソリン	2,777,249 L
軽油	933,668 L

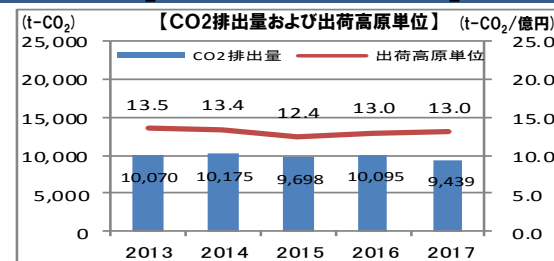
OUTPUT

合計 44,664 t-CO<sub>2</sub>

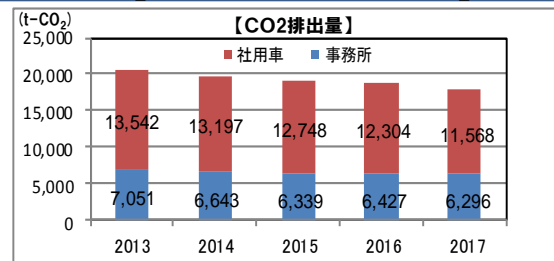
CO<sub>2</sub>排出量 8,056 t-CO<sub>2</sub>



CO<sub>2</sub>排出量 9,439 t-CO<sub>2</sub>



CO<sub>2</sub>排出量 17,864 t-CO<sub>2</sub>



CO<sub>2</sub>排出量 9,305 t-CO<sub>2</sub>

2017年度  
実績/目標

2018年度  
目標

自己評価



CO<sub>2</sub>排出量  
生産高原単位  
14.0  
/15.8  
t-CO<sub>2</sub>/億円

CO<sub>2</sub>排出量  
生産高原単位  
15.2  
t-CO<sub>2</sub>/億円  
以下

自己評価



CO<sub>2</sub>排出量  
出荷高原単位  
13.05  
/13.10  
t-CO<sub>2</sub>/億円

CO<sub>2</sub>排出量  
出荷高原単位  
13.25  
t-CO<sub>2</sub>/億円  
以下

自己評価



CO<sub>2</sub>排出量  
17,864  
/18,317  
t-CO<sub>2</sub>

CO<sub>2</sub>排出量  
19,967  
t-CO<sub>2</sub>  
以下

サンプルデータによる  
推定の為  
目標設定値なし

地球温暖化防止

生産

部材生産、研究・開発  
製品試験、倉庫、事務所

物流

材料調達、販売・返品  
廃棄物物流の荷主として

民生

事務所、展示場、倉庫  
賃貸拠点、社用車

施工

### データの算出について

共通：CO<sub>2</sub>排出量 = 各エネルギー消費量 × CO<sub>2</sub>排出量原単位(電力は電気事業連合会発表係数(2006年度)、その他エネルギーは環境省「温室効果ガス排出量算定方法」による)  
 生産：自社工場の実績データ 物流：荷主実績データ(燃費法およびトンキロ法による算出) 民生：自社およびバナホーム協業会社の実績データ(賃貸拠点の按分データ含む)  
 施工：サンプルデータ(建機の稼働時間・燃費・台数・移動距離、職人の移動距離・人工数)と供給実績からの換算

### 自己評価基準



2017年度目標を達成しました。



2017年度目標は達成できませんでしたが、前年度より改善しました



前年度から改善されませんでした。

目的

部門

CO<sub>2</sub>削減貢献量  
合計 62,655 t-CO<sub>2</sub>

CO<sub>2</sub>削減貢献 62,655 t-CO<sub>2</sub>相当

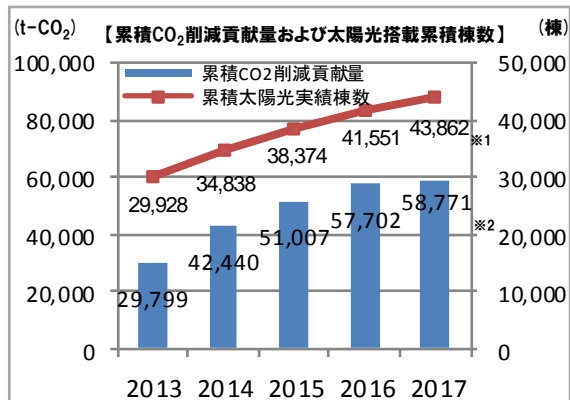
削減貢献量

太陽光発電	58,771 t-CO <sub>2</sub> 相当
燃料電池	3,884 t-CO <sub>2</sub> 相当

創  
工  
ネ

太陽光発電、燃料電池  
による削減貢献

地球温暖化防止



※1 2003年度以降の累積搭載データ

※2 2010年度以降のデータ

2017年度  
実績/目標

2018年度  
目標

自己評価



搭載率

戸建住宅  
太陽光搭載率  
43%  
/54%

集合住宅  
太陽光搭載率  
9%  
/23%

燃料電池  
8%  
/12%

搭載率

戸建住宅  
太陽光搭載率  
49%  
以上

集合住宅  
太陽光搭載率  
17%  
以上

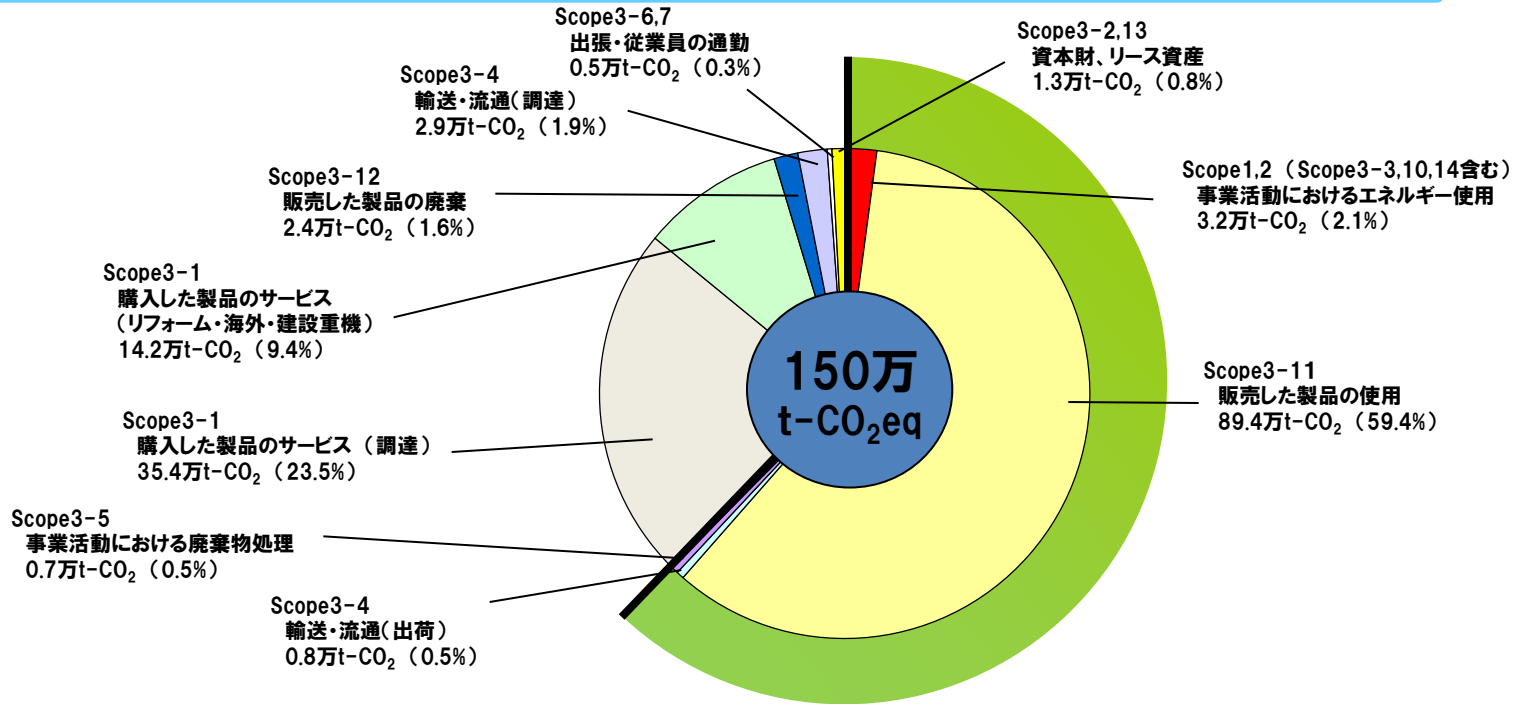
#### データの算出について

共通: CO<sub>2</sub>削減貢献量 = 各商品搭載容量 × 設置台数 × CO<sub>2</sub>削減量換算係数 (当社独自の係数を使用)

太陽光: 戸建住宅への太陽光搭載実績データ

太陽光 (リフォーム): 既存住宅への太陽光搭載実績データ

燃料電池: 戸建・集合住宅、既存住宅への燃料電池設置実績データ



カテゴリ	活動量
Scope1 直接排出	工場における生産エネルギー、事務所エネルギー（灯油・都市ガス等）、社用車エネルギー
Scope2 エネルギー起源間接排出	工場における生産エネルギー、建設現場における工事エネルギー（※1）、事務所エネルギー
Scope3 カテゴリ1 購入した製品・サービス	原材料・資材の調達量（金額及び物量ベース）、建設現場における工事エネルギー（※1）、解体工事におけるエネルギー（※2）、リフォーム工事、外構工事、海外事業（マンション等）等
Scope3 カテゴリ2 資本財	資本財の金額
Scope3 カテゴリ3 Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動	電気・蒸気エネルギー使用量
Scope3 カテゴリ4 輸送、配送（上流）	荷主分の輸送に係る輸送トンキロ、サプライヤー輸送による輸送トンキロ
Scope3 カテゴリ5 事業から出る廃棄物	<処理> 廃棄物種類別排出量、<輸送> 資材量×平均輸送距離
Scope3 カテゴリ6 出張	交通費支給額
Scope3 カテゴリ7 雇用者の通勤	通勤交通費支給額
Scope3 カテゴリ8 リース資産（上流）	Scope1,2で算定
Scope3 カテゴリ10 販売した製品の加工	建設工事における電気の使用量（持分法適用会社及び代理店の新築工事）（※1）
Scope3 カテゴリ11 販売した製品の使用	販売棟数×年間消費電力量×使用年数（60年）
Scope3 カテゴリ12 販売した製品の廃棄	販売棟数×資源使用量（キープラン）
Scope3 カテゴリ13 リース資産（下流）	カテゴリ11に含む。賃貸している床面積
Scope3 カテゴリ14 フランチャイズ	持分法適用会社におけるScope1,2（事務所・社用車エネルギー）

※1：工事エネルギーについては、プレハブ建築協会の環境行動計画「エコアクション2020」の建設現場のCO<sub>2</sub>算出基準に基づきエネルギー使用量算出  
 ※2：解体工事におけるエネルギーについては、平成21年度住宅・建築関連先端技術開発助成事業における「建築解体工事に伴う建設廃棄物量、解体工事費、再資源化、適正処理費用及び二酸化炭素排出量の概算システムに関する技術開発報告書」に基づき算定。

# 省資源に関する環境パフォーマンス

## 自己評価基準



2017年度目標を達成しました。

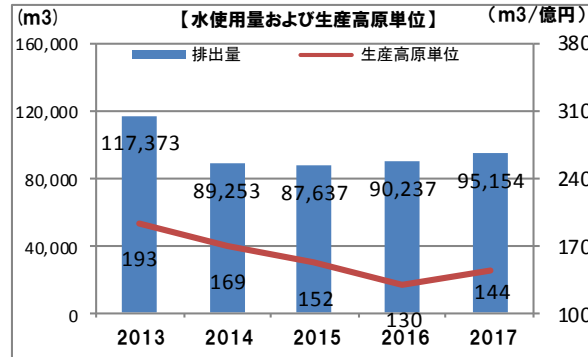


2017年度目標は達成できませんでしたが、前年度より改善しました



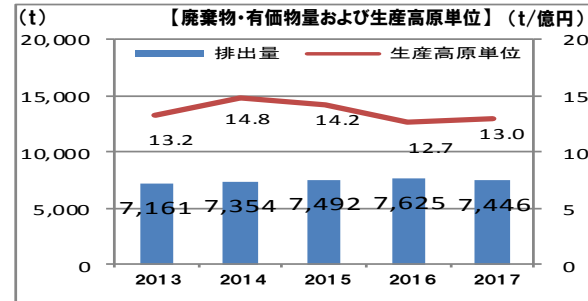
前年度から改善されませんでした。

目的	部門	INPUT	
省資源(水資源)	生産 部材生産、研究・開発 製品試験、倉庫、事務所	使用量 95,154m <sup>3</sup>	
		使用量	
		上水道	45,541m <sup>3</sup>
		工業用水	3,591m <sup>3</sup>
		地下水	46,022m <sup>3</sup>
		合計	95,154m <sup>3</sup>



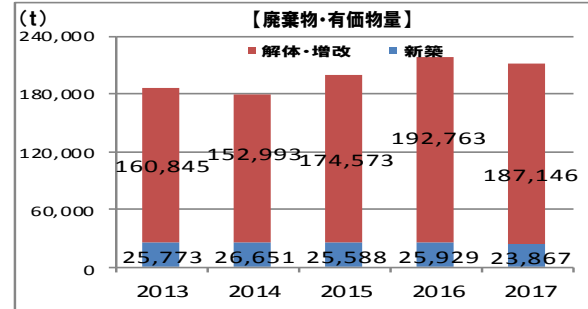
2017年度実績/目標	2018年度目標
自己評価 😊 生産高原単位 144 / 147 m3/億円	生産高原単位 150 m3/億円

目的	部門	OUTPUT	
省資源	生産 部材生産、研究・開発 製品試験、倉庫、事務所	廃棄物・有価物量 7,446t	
		発生区分	
		木くず	2,923t
		金属くず	2,289t
		ガラス陶磁器くず	1,510t
		廃プラスチック	510t
		紙くず	44t
	がれき類	6t	
	その他(汚泥、廃油等)	164t	
		合計	7,446t



2017年度実績/目標	2018年度目標
自己評価 😊 生産高原単位 13.0 / 15.3 t/億円	生産高原単位 15.9 t/億円

省資源	施工 新築・解体・リフォーム	廃棄物・有価物量 211,023t	
		発生区分	
		新築産業廃棄物	23,867t
		解体・増改産業廃棄物	187,146t
		合計	211,023t



2017年度実績/目標	2018年度目標
自己評価 😞 新築施工現場 延床面積当り (2017/3) 20.7 / 17.3 kg/m2	新築施工現場 延床面積当り (2018/3) 12.99 kg/m2

データの算出について  
 水資源: 自社工場の実績データ  
 廃棄物: 有価物発生量については、自社工場の実績データ及び自社・パナホーム協業会社の建設段階における実績データ

# 化学物質に関する環境パフォーマンス

## 自己評価基準



2017年度目標を達成しました。



2017年度目標は達成できませんでしたが、前年度より改善しました



前年度から改善されませんでした。

目的

部門

## OUTPUT

2017年度  
実績/目標

2018年度  
目標

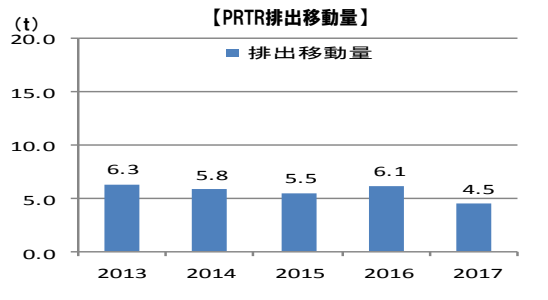
化学物質削減

生産

部材生産、研究・開発、  
製品試験、倉庫、事務所

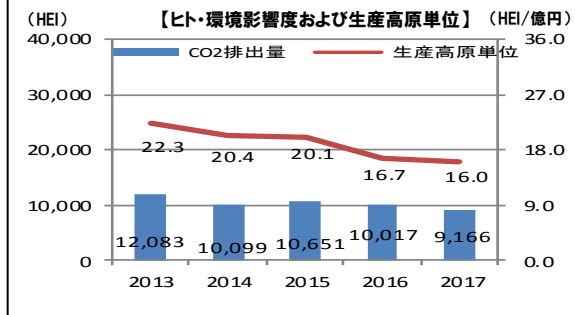
### PRTR排出移動量

主なPRTR対象物質(第1種)	
トルエン	1,748kg
キシレン	975kg
n-ヘキサン	458kg
エチルベンゼン	438kg
マンガン	222kg
燐酸マンガン	111kg
その他	517kg
合計	4,469kg



### ヒト・環境影響度

主な化学物質	
亜鉛	4,652HEI
ストリダードソルベント	1,468HEI
亜硝酸ナトリウム	861HEI
エチルベンゼン	438HEI
シクロヘキサン	258HEI
トルエン	175HEI
二酸化炭素	153HEI
その他	1,161HEI
合計	9,166HEI



自己評価



ヒト・環境  
影響度  
生産高  
原単位

16.0  
/19.6  
HEI/億円

ヒト・環境  
影響度  
生産高  
原単位

17.6  
HEI/億円

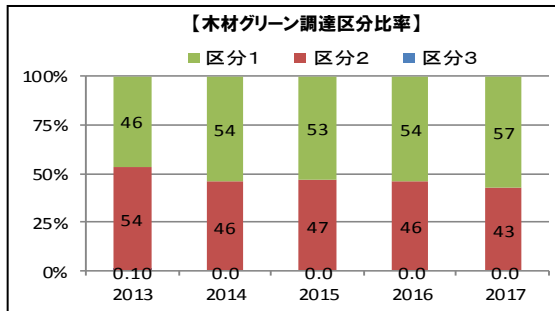
# 生物多様性保全に関する環境パフォーマンス

グリーン調達

生産・  
施工

### 木材グリーン調達実績

区分	割合
区分1 適切に管理された森林から算出された 木材・木質材料 木質系再生資源	57%
区分2 伐採時の合法性が確認された木材・木 質材料 業界団体等によって合法性の認定が 得られている木材・木質材料	43%
区分3 伐採時の合法性が確認できない木材・ 木質材料	0%



自己評価



区分C  
ゼロ化  
/ゼロ化

区分C  
ゼロ化

データの算出について  
ヒト・環境影響度(HEI): 排出移動量に有害性係数(1~10,000倍)を乗じた値  
木材グリーン調達: 自社・パナホーム協業会社の木材調達実績データ

目的

部門

## 環境コスト

## 環境効果

環境会計

生産

部材生産、研究開発  
製品試験、倉庫、事務所

(単位:千円)

環境コスト	設備投資額	費用額
事業エリア内コスト (公害防止、省エネルギー等)	12,960	72,112
上・下流コスト (製品リサイクル等)	0	0
管理活動コスト (環境管理、事業内緑化等)	0	10,076
環境損傷対応コスト (環境修復等)	0	0
合計	12,960	82,187

(単位:千円)

環境効果項目	2017年度実績
事業場エネルギー費用の削減 (省エネルギー等)	32,840
廃棄物処理費用の削減 (廃棄物処分、材料ロス等)	7,255
上下水費用 (水使用量削減等)	4,831
リサイクル品の売却益 (有価物売却益等)	51,951
合計	96,877